

令和元年6月13日現在

機関番号：12101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K16575

研究課題名(和文)「多民族国家」としてのチェコスロヴァキア1918-1992

研究課題名(英文)Czechoslovakia "multinational state" 1918-1992

研究代表者

森下 嘉之(Morishita, Yoshiyuki)

茨城大学・人文社会科学部・准教授

研究者番号：60589042

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究「「多民族国家」としてのチェコスロヴァキア1918-1992」は、中部ヨーロッパにおいて1918年から1992年まで存在していた「チェコスロヴァキア」国家の歴史の特徴を「多民族性」という観点から分析するものである。同国は二度の世界大戦、さらに社会主義(共産党政権)を体験したが、これらの歴史の転換点において、「多民族性」が重要な役割を果たしたことが明らかになった。具体的には、国内外への移民・住民移動、さらに共産党政権下での高層住宅団地の建設・都市計画といった事例を通して、上記のテーマについて検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、二度の世界大戦や東西冷戦(社会主義)、さらには民族政策や都市政策など現代史の論点を、チェコスロヴァキアの歴史を扱うことでより鮮明に浮かび上がらせる。これらの歴史の表舞台となったチェコスロヴァキアは、現代史研究の課題論点が凝縮した地域であり、他地域との比較の視点を多く提供しうる。特に、戦時期における民族政策・人の移動や、社会主義体制下での住宅・都市政策は、必ずしも同国に特有の現象ではなく、日本の現代史とも比較しうる共通の論点を見出すことが可能である。

研究成果の概要(英文)：The aim of theme "Czechoslovakia "multinational state" 1918-1992" is to show how "multinational" character the new 20th century state Czechoslovakia had. This state had the typical "eastern European" historical experience such as World War and Communism, and inhabitants were multinational such as Czech, Slovak, German, Jewish and so on. In this theme approach method was not only by politic history but also by social history, for example, transfer of national minority from Czechoslovakia or colonization of Czech majority to the area where minority lived. In addition, by analyzing housing policy during socialistic era, this study could approach to the character of national or ethnic policy by Communist regime.

研究分野：地域研究

キーワード：チェコスロヴァキア 東欧 人の移動 団地

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

人の移動、移住が歴史学の主要な研究テーマとなっており、強制的移住、「自発的」移住など多様な動機が存在するが、この問題を考える際に、第二次世界大戦後の東欧諸国からのマイノリティ住民追放は重要な意味を持つ。その理由は、ナチスの占領と第二次世界大戦の経験、そして1000万人以上に及ぶ戦後のマイノリティ住民の追放こそが、長年にわたる東欧地域の多民族・多文化共存を根底から破壊するものであったためである。

2. 研究の目的

ウクライナ情勢に代表されるように、昨今の国際紛争においては「マイノリティ」の存在が要因となる事例が少なくない。しかし、中・東欧地域は、さまざまな民族・言語・宗教「マイノリティ」が紛争を引き起こしながらも共存してきた歴史を持つ。本研究は、第一次世界大戦前から社会主義期までの中・東欧地域において形成された「マイノリティ」諸集団を、東欧諸国がどのように統合しようとしたのか、東欧地域における民族共存がなぜ可能となったのか、その要因を解明する。具体的には、1918年に独立し、1992年に解体した「多民族国家」チェコスロヴァキア共和国のマイノリティ政策を分析する。

3. 研究の方法

本研究における計画・方法は、チェコ共和国及びドイツにおける文書館史料の収集が中心となる。具体的には、チェコ国立図書館、国立文書館、チェコ国内の地方文書館における史料収集が中心である。また、ドイツではバイエルン州立図書館及びミュンヘン市のコレギウム・カロリヌム研究所、ハンブルク州立文書館が重要な史料を有している。共同研究の機関として、チェコ歴史学研究所およびチェコ現代史研究所と連絡を取り、文書保存状況を確認したうえで現地での収集にあたる。また、本研究の成果を、下記の国際学会において英語で発表し、海外に発信する。

4. 研究成果

平成27年度においては、国際学会「国際中欧・東欧研究協議会(ICCEES)」でパネル報告を行い、隣接分野の研究者との協同プロジェクトを遂行することによって問題意識を共有し、研究の発展を図った。報告者は、1920-30年代にチェコスロヴァキアとポーランドの境界地域で発行されていた教会系新聞を分析することで、国民化が進行する両大戦間期の東欧地域の住民の反応に迫ることを目指した。

平成28年度においては、研究の射程を社会主義体制崩壊後の歴史記憶政策にまで広げることで、同国の国民史・歴史認識を問い直すことを目指した。これによって、本研究の対象を、両大戦間期のみならず、ナチス占領期さらには戦後の共産主義期にまで視野に入れることが可能になった。また、本計画の研究手法に、空間論・歴史地理学を応用することで、本研究の課題の一つである国境政策においても研究を進めた。具体的には、同国の「国境地帯」と称される地域で、戦後の社会主義体制成立期において同国政府が推進したチェコ人入植政策を分析した。

平成29年度においては、第二次世界大戦期チェコスロヴァキアの地方都市オストラヴァにおける戦時の占領政策・労働者政策を分析することで、ナチス・ドイツ占領期から共産党政権成立に至る時期の住民占領政策における戦前戦後の連続性を考察した。これらの研究を通して、チェコスロヴァキアにおける住民・民族政策の普遍性と特殊性を、「戦時社

会問題」という観点から他地域との比較を通して明らかにする道が開けた。また、第二次世界大戦後のチェコ「国境地域」と称される地域における住民移動政策の研究史を整理し、今後の研究の足掛かりを得た。

平成30年度における成果は、台湾で開催された国際ワークショップでの発表であった。ここでは、チェコスロヴァキアの社会主義時代（1948-1989年）に建設された高層住宅団地の歴史的意味をテーマとしたが、団地の入居者の選別において民族・社会階層による排除の論理が働いていたという見通しが立てられた。また、チェコ人にとって高層住宅団地が社会主義時代の歴史的記憶の象徴的存在として位置づけられるのではないかという見通しが立てられた。以上の研究成果から、チェコスロヴァキア建国百年を経て、同国の社会体制を特徴づけていた「多民族性」について、様々な角度から検証可能性を見出しうることで、今後の研究につなげていく見通しが立てられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4件)

森下嘉之「「ヒトラーの新秩序」とその後がもたらした地域社会の変容 - チェコ工業都市オストラヴァを事例に(1938-1948年)」『歴史と経済』60巻3号、2018年、12-21頁(査読有)

森下嘉之「第二次世界大戦後チェコ「国境地域」における復興政策をめぐる一考察 - 近年の研究動向を手掛かりに」『ENSG エスニック・マイノリティ研究』1巻、2017年、53-66頁(査読有)

森下嘉之「チェコ 全体主義体制研究所と秘密警察文書」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』1005巻、2016年、10-13頁(査読無し)

森下嘉之「建国期チェコスロヴァキアにおける宗派帰属をめぐる - 福音派教会のなかの「チェコ人信徒」を例に」『東欧史研究』37巻、2015年、20-42頁(査読有)

〔学会発表〕(計 6件)

森下嘉之「第二次世界大戦後の中東欧における学知再編と「地域史」の構築 - 「民俗学/歴史学者」ヴァルター・クーンの活動を通して」2018年11月26日、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター客員研究員セミナー(北海道大学)

森下嘉之「ポスト社会主義期のチェコにおける集合住宅(パネラーク)の歴史認識」2018年8月20日、エスニック・マイノリティ研究会ワークショップ「風景・景観の改変と地域社会の変化」(台北・国立政治大学)

森下嘉之「「ヒトラーの新秩序」とその後がもたらした地域社会の変容 - チェコ工業都市オストラヴァを事例に(1938-1948)」2017年10月14日、政治経済学・経済史学会秋季大会(大阪商業大学)

森下嘉之「社会主義期における境界領域の「実体化」」2017年3月5日、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・プロジェクト型共同研究(北海道大学)

森下嘉之「チェコ全体主義体制研究所における現代史認識の争点 - 除外された1945-1948年の意味」2016年7月16日、東欧史研究会例会(東京外国語大学)

MORISHITA Yoshiyuki, Religious and National Identity of Czech Evangelical Believers in Czechoslovakia Newspapers in the Interwar Period, 2015年8月4日、ICCEES IX World Congress(神田外国語大学)

〔図書〕(計 1件)

— 森下嘉之「第5章 チェコ - 全体主義体制研究所と史料アーカイヴ」橋本伸也編『せめぎあう中東欧・ロシアの歴史認識問題』ミネルヴァ書房、2017年、68-80頁

〔産業財産権〕
出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。